

令和4年度 第1回富山県野生鳥獣保護管理検討委員会 議事録

1 日 時

令和4年6月23日（木）14時00分～16時20分

2 場 所

富山県民会館 702号室

3 出席者

三浦愼悟委員長、赤座久明委員、有山義昭委員、大井徹委員、大岩満委員、金井誠委員、長谷川幹夫委員、山崎裕治委員、山本茂行委員、和田直也委員（委員名は五十音順）（河島節郎委員、中島章文委員は欠席（書面により意見提出））

4 議事項目

- (1) 第二種特定鳥獣管理計画の評価について
- (2) ニホンザル管理計画の改定について
- (3) 指定管理鳥獣捕獲等事業の評価と実施計画について
- (4) その他

5 議事概要

(1) 第二種特定鳥獣管理計画の評価について

① 評価全体について

(委員)

説明ではどの期間の計画に対する評価なのか分かり難い。説明して欲しい。

(委員)

説明の仕方として「現在第何期の評価を行っているのか」を最初に触れた上で説明すべき。現在進行形で取り組まれているものと一緒に説明されると何を評価して良いのか分かり難い。今の評価の表では分かり難く、様式は定められていないのだから工夫したら良いと思う。

(事務局)

計画最終年度(令和3年度)の評価ができておらず、それらを含めた期間、ニホンザルでは第4期、クマは第3期、イノシシは第3期、ニホンジカは第2期、カワウ・カモシカは第1期の評価となる。

ご指摘を踏まえ、今後の業務に活かしたい。

② ニホンザル管理計画

(委員)

富山市においてこれまで出沒が無かった地域への新たなサルを目撃情報は、これまでの群れの行動範囲が広がったものか、それとも新たな群れなのか把握しているか。

また、前年度の個体数把握の結果に応じて本年度の捕獲数を決めていると思うが、実際、モニタリング調査により群れ毎の生息頭数把握はできているのか。

(事務局)

富山市の福沢群については、発信器の電池寿命が H29 に切れ、その後モニタリングできず把握できていない。

群れの全頭数の把握については、令和3年度は、1群のみ把握するにとどまった。労力も経費もかかるため詳細に行うには難しく、現在のところ前年度の捕獲数を元に群れの生息数を整理している。〈過去7年間で11群全数頭数を確認〉

(委員)

管理計画はデータに基づき進めるもので実態把握が進んでいなければ、その旨を評価に記載すべき。また、現在の被害対策だけではなく、将来予見される被害への対策が必要で評価にも記載すべき。サルの被害が市街地に広がると手に負えなくなる場合もある。そのため、特定の群れに捕獲圧をかける等対応が必要となる場合もあるので、データに基づいた予想も検討して欲しい。

(委員)

捕獲頭数増としたから農作物被害金額が減少したのか。それとも被害はあるが、被害申告する人が減少したことが影響しているのか。評価根拠の確保に努めて欲しい。

(事務局)

自家消費野菜等は、昨今は農作物被害額として扱っておらず、そういうことが被害額減少しているように現れているところがある。実際には家庭菜園や生活環境被害等もあり、グラフ等には現れ難い状況となっている。

(農村振興課)

被害額の算定は H19 頃から国の基準に基づき算定している。また、市場に出回っている野菜の被害額は、例えば富山市では平成20年代に侵入防止柵を設置するなど整備が進められたこともあり、被害額は減少している。

(委員長)

計画の遂行には防除と捕獲の二面性があり、その実施のための根拠が弱い印象がある。

(委員)

家庭菜園の被害規模を算定することは難しく、被害の数字だけで評価するとその数が独り歩きしかねない。現在、出沒カレンダー調査等によりサルの動きに注目しており、対策前後の行動域の変化を見ることで、対策の効果測定をすべきと考える。

(委員)

他の鳥獣の被害傾向はどうか。

(事務局)

参考資料 16 ページのとおりで、全体的に減少傾向であり、イノシシが全体の 8 割程度を占めている。

③ ツキノワグマ管理計画

(委員)

クマ AI を初動対応に活用としているが、撮影場所次第で手遅れの場合もある。今後も撮影されたデータを活用分析し、侵入防止や環境整備に役立てて欲しい。

(委員)

管理計画は、被害防除・生息環境管理・個体数管理といった 3 本柱から成り立っている。その中で、里山整備等の生息環境管理事業の検証が出来ていない。どこでどれだけ実施され、それに対して出没や被害がどう変化しているかを可視化すべき。被害状況やクマップなどと連動させて事業効果を検証すべき。目で見て生息環境管理事業効果を分かるようにすれば、地域住民に対する広報にも繋がる。職員が忙しいのであれば、その検証に AI を活用する手法もある。

(事務局)

ご指摘を踏まえ、今後の業務に活かしたい。

(委員長)

AI 画像も、少数で撮影しただけでは活かせない。ネットワークを構築し、どこにカメラを設置するのが効果的かなど、調査を進めていく必要がある。

④ イノシシ管理計画

(委員)

豚熱の状況はどうか。他県の状況や、イノシシの生息数の変化はあるか。

(農業技術課)

豚熱は全国的に拡大傾向にあり、中部地方では令和 2 年以後減少、富山県でも 2 週間前に陽性が出て岐阜県も同様で、原因はよく分かっていない。石川県や新潟県は継続的に陽性が出ているなど県によってバラつきがあり、影響は評価し難い状況である。

(農村振興課)

石川県に聞いたところ、石川県では豚熱が北上していったのではないかと聞いている。県内の生息数については、豚熱のほか、堅果類の 2 年連続の不作や大雪などのほか、令和元年の約 7,300 頭の有害捕獲の効果があって減少したものと考えている。

(委員)

豚熱の実態把握が甘い。生息数への影響が有害捕獲、堅果類豊凶など憶測でしかない。県から狩猟者が死亡個体場所や数の報告を呼びかける等してデータ収集もできる。

(委員)

隣県も捕獲数の増減が豚熱の発生時期と同調していたので捕獲圧を強めた結果というより全体的に豚熱の影響が顕著なのではないか。豚熱にイノシシの数を減らす機会がありながら、一方で家畜伝染病の事情もありワクチン散布することで保護されている。

(事務局)

色んな要素はありながらも、今年は個体数調査を実施するのでその調査で現状を把握していきたい。

⑤ ニホンジカ管理計画

(委員長)

イノシシやニホンジカは、元々富山県内には生息していなかったので「根絶を目指す」と言う考え方で良い。今後どう抑えていくかという観点で方向性を定めるべき。

ニホンジカは、県民の宝である高山植物帯への侵入をどう防ぐかが課題だ。生息密度が少ない中で減少させることは難しいが、重要な課題であると思う。

(委員)

ニホンジカの生息数は今後も増加する可能性が高く、計画に掲げる 241 頭の捕獲目標に係わらず毎年の評価の中で年間捕獲数を増加させる考えで良いのではないか。

ニホンジカについては、農業被害は確認されていないという理解で良いか。

(事務局)

捕獲目標数を超えて捕獲できれば、その数以上を目標にすることにしている。ニホンジカによる農業被害は報告されていない。

⑥ カワウ・カモシカ管理計画

意見無し

(2) ニホンザル管理計画の改定について

(委員)

改定の趣旨はよく分かりました。現在の群れの分布だけではなく、過去と比較して分布がどう変化したかについても示す必要があるのではないか。5km メッシュでの経年変化を図示することで比較しても良い。

(事務局)

今まで全体の群れ分布の記述が無かったので、まずは現在の群れの状況を整理したところから着手したい。今は概要からスタートさせて、少しずつ精度を上げたい。最初から精度の高いものを目指すと最初の一步がなかなか踏み出せなくなるのが困る。

(委員)

全ての群れの分布変化を示すのは困難だ。全部は無理でも、可能な群れについて今あるデータで図示することは可能なので、まとめて行って欲しい。データは蓄積しているし、やってみる価値はあると思う。

(委員長)

計画的・科学的に進めていくことが重要で、積み重ねられたデータは県の財産となる。これまでのデータの蓄積に基づき今後の計画が出来上がるものだと思う。ここまでやってきたのだというディスプレイ、情報発信を頑張って検討して欲しい。

(3) 指定管理鳥獣捕獲等事業の評価と実施計画について

(委員)

この事業は専門チームの捕獲強化と、捕獲技術の普及を進めているということで良いか。専門チームと、通常の有害や狩猟による捕獲との捕獲効率の比較ができると事業の目的にそった評価が可能になる。

(事務局)

その通りである。現在も出猟カレンダーで狩猟との捕獲効率を求めているが、これまで比較はしていないが、今後確認したい。

(委員)

専門チームは税金を投入している公共事業であり、捕獲効率を上げるよう伝えて欲しい。また、認定鳥獣捕獲等事業者は新潟・石川・福井等にはあるが、富山県にないことについて、どう考えているのか。

狩猟免許の所持者数は増加しながら、銃猟従事者数はほぼ変わらず、高齢化が進んでいる現実なので、10年後を見据えた対策が必要だ。

鳥獣保護管理法が改正され、当該事業は国が行うという方針に変換したが、県では公的団体ではない猟友会に依存しがちだ。しっかりした体制システムを構築する必要がある。

(事務局)

全国で認定事業者が無いのは当県を含めて3府県のみで、県としては猟友会に要件も満たしているの認定事業者となるよう要請しているが、猟友会内部で事業者への認定の是非が問われている状況であり、県としては引き続き猟友会へ働きかけてまいりたい。

(委員長)

猟友会の方からの意見も聞きたい。

(事務局)

本日欠席され意見を預かっており、その中で「当該事業への猟友会員の見学・実習等を考えて欲しい。専門チームは技術レベルが高く会員の技術向上が図れる」としている。

(委員長)

くくり罠による錯誤捕獲等で危険や問題が生じていないか。

(事務局)

従事者には危険を周知し、業務に当たってもらっているが、昨年6月にカモシカの錯誤捕獲の放獣作業中にカモシカが向かってきて負傷する事例が発生した。また、クマの錯誤では、危険等の問題もあり、やむなく捕殺対応となりデータは蓄積している。

(委員長)

A I、I C T、ドローン等の活用について、今後の展望をどのように考えているか。

(事務局)

I C Tを用いたワナ等は、専門チームでも活用し、知見を活かして事業を行っている。

(4) その他

意見無し